

## ポーランド国内治安関連統計

### 1 2018年第2四半期(4月～6月) 治安統計

国家警察本部が発表した統計によると、2018年第2四半期(4月～6月)の犯罪認知件数は16万7,608件で、対前年同期比37.6%減、対前期比22.5%減となった。今期は、ほぼすべての分野で認知件数が減少しており、窃盗、侵入盗、傷害等の分野で大幅な減少が見られる。

ポーランド人の多くは、国内の治安情勢の安定を実感しており、本年4月に世論調査機関CBOSがポーランド人1,140人を対象に実施した世論調査でも、回答者の86%がポーランドは安全と回答しているほか、7月に警察が実施した調査でもポーランド人の93%が住居近辺での生活の安全を実感していると回答している。

当地では中長期的に治安の改善傾向が続いており、邦人についても生命・身体の安全に危険を覚える場面は少ないとみられるが、窃盗等の金銭目的の犯罪については依然として日本より発生頻度は高く、意識的な防犯対策が求められる。

殺人：	103件	(対前年同期比	3.0%増	対前期比	16.9%減)
傷害：	2,233件	(同	33.4%減	同	28.5%減)
暴行：	929件	(同	29.4%減	同	23.5%減)
強姦：	234件	(同	18.5%減	同	28.9%減)
強盗：	1,385件	(同	34.7%減	同	33.4%減)
窃盗：	17,894件	(同	37.4%減	同	19.7%減)
車両窃盗	1,473件	(同	21.6%減	同	33.8%減)
侵入盗：	12,885件	(同	25.6%減	同	31.7%減)
薬物犯罪：	13,619件	(同	13.6%減	同	23.7%減)
偽造：	4,419件	(同	31.8%減	同	21.1%減)

### 2 邦人被害事案

- (1) 4月、ワルシャワ市内のレストランで、邦人旅行者が財布、身分証を盗難された。
- (2) 6月、ワルシャワ市内を観光中の邦人旅行者が旅券を盗難された。
- (3) 6月、クラクフ市内で邦人旅行者が旅券を盗難された
- (4) 6月、クラクフ市内の喫茶店で邦人旅行者が旅券及び貴重品を盗難された。

### 3 邦人以外の被害事案(参考になり得る事案)

- (1) 5月13日、ワルシャワ南西のヴォヒのケバブ店で、ポーランド人グループ(男性2人、女性1人)がエジプト人従業員を暴行し、差別的な暴言を浴びせる事案が発生した。容疑者の男は店員に店の前で飲酒しないよう注意されたことに腹を立て、同店員を鉄パイプで殴る等の暴行を加えた上、店舗の窓や扉を破壊したとされる。容疑者の女は暴行には加わっていないものの、被害者に差別的な暴言を浴びせるな

どしたとされる（国家警察本部ウェブサイト）。

- (2) 5月29日、警察は、ヴロツワフで27歳のナイジェリア人を拘束した。同人は、インターポールに国際指名手配された犯罪組織のメンバーで、電子メール等を利用し、いわゆるナイジェリア詐欺を繰り返していた。同人が関与した詐欺の被害総額は700万米ドルにのぼる（国家警察本部ウェブサイト）。
- (3) 6月2日、警察は、グダンスク市内の路上でスウェーデン人旅行者を襲撃した容疑でポーランド人男性3人を逮捕した。同事件は5月21日に発生したもので、容疑者はスウェーデン人旅行者を暴行し、携帯電話を強奪したとされる（国家警察本部ウェブサイト）。
- (4) 6月25日、警察はドルノシロンスキエ県クライクフのA4高速道路上で集団走行中のオートバイギャングを摘発し、6人を拘束した。今次摘発は、同グループが武器等の危険物を携行しているとの情報を基に実施されたもので、容疑者は、銃器、弾薬、ナイフ、伸縮式警棒等の武器を無許可で所持していた（国家警察本部ウェブサイト）。

#### 4 テロ・爆弾事件発生状況

発生は確認されていない。

#### 5 誘拐・脅迫事件発生状況

##### (1) 日本人の被害

発生は確認されていない。

##### (2) 外国人の被害

5月8日、警察は、拉致に関与したとしてグダンスクの犯罪組織に所属するポーランド人3人を拘束した。容疑者は、5月7日にグダンスク市内で21歳のポーランド人男性を拉致したとされ、人身売買の容疑がかかっている。なお、被害者は、警察によって無傷で開放された（当地主要紙）。

#### 6 日本企業の安全に関する諸問題

特になし。

(了)